

需要獲得

ものづくり

有限会社吉原木工所

島根県浜田市

日本の伝統技術「組子」を活かしたオリジナル商品を制作・販売

1996年に里山で木工所を創業、作り付け木製家具・建具を中心にあらゆる木製品を製造してきた。2002年に吉原敬司（現社長）が、日本の伝統木工技術である「組子」を県外の工房で学び帰郷、入社した。それを契機に新たに組子部門を立ち上げ、「組子」の新ジャンルを開拓し、リビング障子などのモダン組子製品を制作、販売している。「グッドデザイン賞」の受賞を始め、全国建具フェアで「農林水産大臣賞」、「中国地域ニュービジネス優秀賞」なども受賞して幅広い顧客の支持を得ている。

所在地 島根県浜田市三隅町室谷912番地1
電話/FAX 0855-34-0227/0855-34-0233
URL <http://yoshiharawoodworks.com/>
代表者 代表取締役 吉原 敬司

設立 1996年
資本金 500万円
従業員数 10人



衰退する伝統木工技術を蘇らせた職人起業家「吉原敬司」

3代目の吉原敬司（現社長）は高校卒業後の6年間、富山で組子職人修行をした後、24歳で家業に入った。衰退しつつあった組子技術を何とか現代に生かすデザインに工夫すべく全国を行脚し、組子事業を成功させた職人起業家である。制作、営業、経理まで一連業務に精通し、業界の動きを踏まえた総合的な経営判断ができ、少数精鋭の社員を率いて事業を確実に成長させている。地元ポリティカレッジで講師を務め、組子に興味を持った生徒2人の雇用に繋がり、地元の雇用創出にも貢献している。



組子障子（商品名：リビング障子）

日本の伝統技術「組子」を研究・追求し、オリジナル商品を制作・販売

2013年発表の組子障子（商品名：リビング障子）がグッドデザイン賞を受賞して以来、全国的に知名度が高まり、一般住宅からホテルの内装までさまざまなシーンで取り入れられるようになり、受注も拡大中である。コンマ数ミリの誤差も許さない高度な職人の手業と、女性スタッフによるデザイン力で現代のシーンにも溶け込むモダンな組子は高い評価を得ている。さらに、独自の刃物の設計・開発や一部の機械化でコストダウンを実現したことにより、国内外で幅広い顧客の支持を受けるようになった。



組子を制作する女性職人

世界に認められた組子の装飾性

2018年にホームページを海外対応にしたところ、中国や台湾など海外からの問い合わせが増えてきた。2018年に北欧デザイナーと共同開発した円形間接照明をデンマークで10台以上納品することができた。2019年10月に海外ビジネス展開のため翻訳付きPR用制作風景動画を制作したところ、スイス・バーゼルワールドのブース装飾、シンガポール・チャンギ空港の店舗装飾などの受注にも繋がった。2020年にはパリの展示会に出品、今後はサイズのバリエーションを増やし欧州全域に販売を予定している。



吉原木工所の海外対応ホームページ